
江別市 将来人口推計

平成 24 年4月

江 別 市

* 目 次 *

I	将来人口推計のまとめ	1
1	推計方法のまとめ	1
2	推計結果のまとめ	1
II	推計方法のまとめ	2
1	基準人口	2
2	生残率	2
3	純移動率	2
4	出生率	2
5	出生数	3
6	出生性比	3
III	推計結果	4
1	将来人口の推計	4
2	年齢3区分別人口	5
3	人口ピラミッド（5歳階級別人口）	6

I 将来人口推計のまとめ

1 推計方法のまとめ

平成 26 年度からの江別市新総合計画策定にあたり、平成 35 年度を目標年次とした将来人口推計を行うものです。本推計ではコーホート要因法を準用し、国勢調査の実績値にもとづく将来人口推計を行いました。

なお、国勢調査結果には年齢が明らかでない年齢不詳人口が含まれます。将来人口推計にあたって、これらの人口を 0～4 歳、5～9 歳といった 5 歳階層別人口に按分して含めました。

また、国勢調査は 5 年ごとに実施される調査であり、この実績を用いてコーホート法によって推計を行うと将来人口推計は平成 27、32、37 年の推計結果が算出され、目標年次と 3 年の差異が生じます。このため、国勢調査の実績にもとづく 5 年ごとの将来人口推計の結果を比例補完して平成 25、30、35 年の推計結果を算出しました。

2 推計結果のまとめ

本市の将来人口推計結果を次にまとめるとともに、推計結果を図表 I-1 に示します。

- ◇ 平成 17 年をピークに緩やかな減少傾向を示す結果となり、**平成 30 年からは人口 120,000 人を下回る見込み**となりました。
- ◇ 平成 25～30 年、30～35 年のそれぞれで人口減少幅は拡大しており、人口の減少傾向が大きくなる見込みです。
- ◇ 年齢 3 区分別人口年少人口（14 歳以下）、生産年齢人口（15～64 歳）、高齢者人口（65 歳以上）をみると、**平成 30 年には年少人口が 10%を下回るとともに高齢者人口が 30%を上回る見込み**です。
- ◇ 年少人口、生産年齢人口が減少し、高齢者人口が増加する傾向が継続する見込みで、少子化・高齢化が大きく進展していることが分かりました。
- ◇ 5 歳階級別男女別人口をみると、**平成 22 年時点で 60～64 歳が最も人口が多い階層となり、この最も人口が多い階層が今後、5 年以内に 65 歳となることから、本市の高齢者人口の増加は拡大していくことが見込まれます**。
- ◇ 目標年次である平成 35 年の人口ピラミッドをみると、「逆三角形分布」となる見込みで、**より少数の現役世代が多数の高齢者を支える社会の到来が迫っている**ことを示す結果となりました。

図表 I-1 江別市の将来人口推計

(人)

	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 25 年	平成 30 年	平成 35 年
総人口	123,877	125,601	123,722	122,257	119,046	114,864

← — — 実績値 — — → | ← — — 推計値 — — →

(実績値は国勢調査)

II 推計方法のまとめ

将来人口推計にあたっては、コーホート要因法を準用しました。推計にあたって用いた係数、推計手順を次に示します。

1 基準人口

平成 12 年、平成 17 年、平成 22 年の国勢調査における人口を基準人口としました。なお、国勢調査は各年の 10 月 1 日現在の人口です。

2 生残率

男女別年齢 5 歳階級別の生残率は『日本の都道府県別将来推計人口』（平成 19 年 5 月推計）（国立社会保障・人口問題研究所）に準拠しました。

3 純移動率

平成 17 年 10 月 1 日と平成 22 年 10 月 1 日の間の実績データ、同期間の男女別年齢 5 歳階級別の生残率から算出しました。

4 出生率

出生率は、『日本の都道府県別将来推計人口』（平成 19 年 5 月推計）（国立社会保障・人口問題研究所）に準拠し、北海道の女性の年齢別出生率の年間平均を用いました。15 歳から 49 歳の母の出生率を図表 II-1 に示します。

図表 II-1 北海道の女性の年齢別出生率(年間平均)

階級	平成 17~22 年	平成 22~27 年	平成 27~32 年	平成 32~37 年	平成 37~42 年	平成 42~47 年
15~19 歳	0.00564	0.00560	0.00566	0.00576	0.00577	0.00572
20~24 歳	0.03859	0.03713	0.03660	0.03681	0.03721	0.03735
25~29 歳	0.07612	0.07347	0.07251	0.07205	0.07240	0.07297
30~34 歳	0.07053	0.06857	0.06794	0.06820	0.06835	0.06858
35~39 歳	0.02995	0.03132	0.03477	0.03617	0.03666	0.03698
40~44 歳	0.00478	0.00556	0.00599	0.00621	0.00634	0.00639
45~49 歳	0.00017	0.00019	0.00022	0.00023	0.00025	0.00026

5 出生数

出生数は、本市の直近の実績値にもとづくものとし、平成 17 年から 22 年の平均値としました。出生数の実績を図表Ⅱ－2 に示します。

図表Ⅱ－2 出生数の実績 (人)

	男性	女性	合計
平成 17 年度	376	350	726
平成 18 年度	404	391	795
平成 19 年度	355	364	719
平成 20 年度	320	361	681
平成 21 年度	347	351	698
平成 22 年度	378	340	718
合 計	2,180	2,157	4,337

(平成 17～21 年度は統計書、平成 22 年度は市民課データ)

6 出生性比

出生性比を図表Ⅱ－2 に示す本市の出生数の実績から算出し、図表Ⅱ－3 に示すように女性 100 に対して男性 101.1 ($2,180/2,157=1.011$) としました。

図表Ⅱ－3 出生性比

	男性	女性
出生性比	101.1	100.0

Ⅲ 推計結果

1 将来人口の推計

目標年次である平成 35 年までの将来人口推計の結果を図表Ⅲ－1（図表Ⅰ－1の再掲）、図表Ⅲ－2に示します。

平成 25 年から 30 年にかけての 5 年間で 3, 211 人の減少、同様に平成 30 年から 35 年にかけて 4, 182 人の減少が見込まれます。全国的な少子化、高齢化の進展を背景に人口の減少幅が大きくなっていく見込みです。

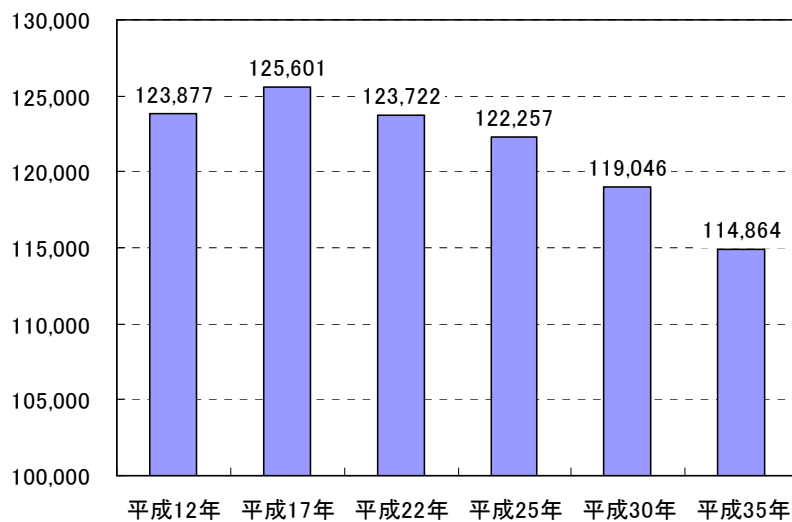
図表Ⅲ-1 将来人口推計 (人)

	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 25 年	平成 30 年	平成 35 年
総人口	123,877	125,601	123,722	122,257	119,046	114,864

← 実績値 → ← 推計値 →

(実績値は国勢調査)

図表Ⅲ-2 将来人口推計結果 (人)



(平成 12、17、22 年は国勢調査)

2 年齢3区分別人口

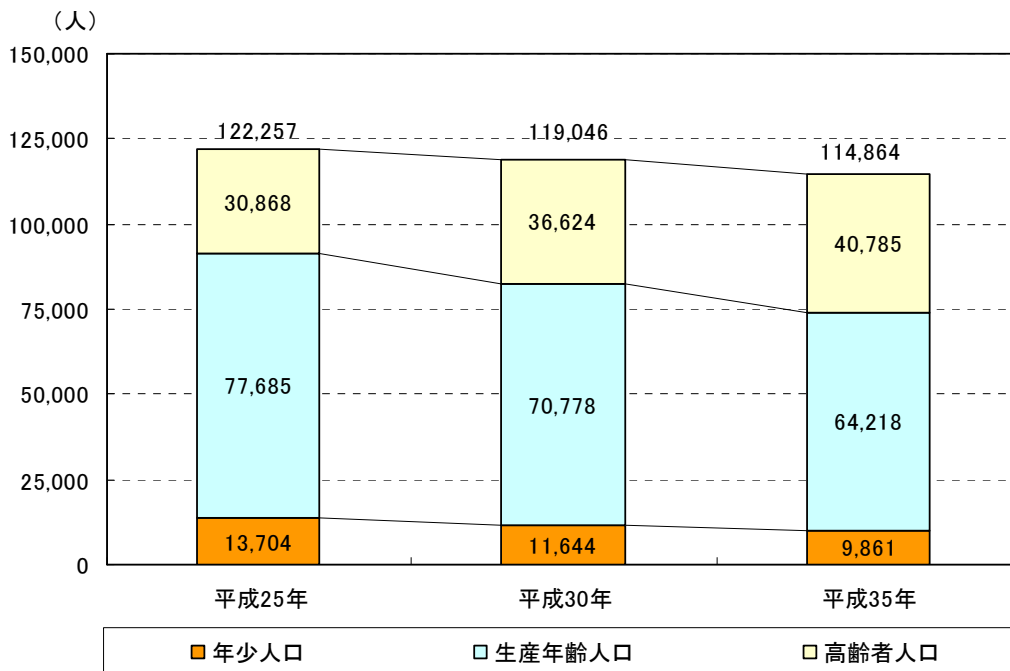
年齢3区分別人口構成を図表Ⅲ－3、将来人口推計結果（年齢3区分別）を図表Ⅲ－4に示します。年少人口（14歳以下の人口）の割合は継続的に減少傾向にあり、今後もこの傾向は継続すると推計されます。平成30年には9.8%と10%を下回る見込みです。生産年齢人口（15～64歳の人口）も同様の傾向にあり、平成30年には59.5%と60%を下回る見込みです。高齢者人口（65歳以上の人口）は平成22年時点で21.8%と高い割合となっています。今後も全国的な高齢化を背景に継続的な増加が見込まれます。平成25年には25.2%と総人口の4人に1人、平成35年には同様に3人に1人が65歳以上となる見込みです。

図表Ⅲ－3 年齢3区分別人口構成

	総人口	年少人口 (14歳以下)		生産年齢人口 (15～64歳)		高齢者人口 (65歳以上)		
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	
実績値	平成12年	123,877人	19,223人	15.5%	85,817人	69.3%	18,837人	15.2%
	平成17年	125,601人	17,374人	13.8%	85,746人	68.3%	22,481人	17.9%
	平成22年	123,722人	15,054人	12.2%	81,638人	66.0%	27,030人	21.8%
推計値	平成25年	122,257人	13,704人	11.2%	77,685人	63.5%	30,868人	25.2%
	平成30年	119,046人	11,644人	9.8%	70,778人	59.5%	36,624人	30.8%
	平成35年	114,864人	9,861人	8.6%	64,218人	55.9%	40,785人	35.5%

(実績値は国勢調査)

図表Ⅲ－4 将来人口推計結果(年齢3区分別)



3 人口ピラミッド（5歳階級別人口）

5歳階級別男女別人口の推計結果を図表Ⅲ－5に示します。最も人口が多い階層は、平成25年で60～64歳、平成30年で65～69歳、平成35年で70～74歳となる見込みです。すなわち、本市で最も人口が多い階層は平成30年以降に高齢者（65歳以上）となることから、今後、65歳以上の高齢者人口が大きく増加することが見込まれます。

また、平成25年から30年にかけて、45～49歳の階層を除けば64歳未満の全ての階層で人口が減少する見込みです。高齢者人口が増加し、それ以外の人口が減少していく傾向にあるため、今後とも高齢化が進行する見込みです。

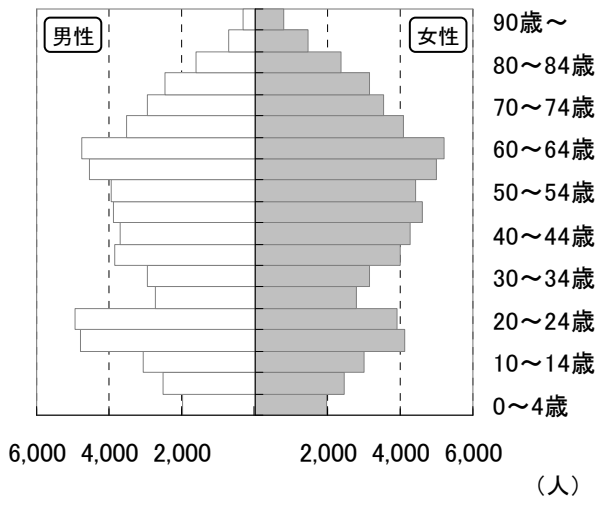
図表Ⅲ－5 5歳階級別男女別人口の推計結果 (人)

	平成25年			平成30年			平成35年		
	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計
0～4歳	1,734	1,742	3,476	1,450	1,458	2,908	1,280	1,287	2,567
5～9歳	2,335	2,305	4,640	1,941	1,928	3,869	1,623	1,613	3,236
10～14歳	2,818	2,770	5,588	2,443	2,424	4,867	2,031	2,027	4,058
15～19歳	4,367	3,797	8,164	3,745	3,289	7,034	3,247	2,878	6,125
20～24歳	4,728	3,797	8,525	4,187	3,437	7,624	3,591	2,977	6,568
25～29歳	2,418	2,527	4,945	2,111	2,289	4,400	1,870	2,073	3,943
30～34歳	2,807	2,892	5,699	2,391	2,471	4,862	2,087	2,238	4,325
35～39歳	3,420	3,607	7,027	2,966	3,068	6,034	2,526	2,622	5,148
40～44歳	3,849	4,192	8,041	3,491	3,732	7,223	3,029	3,175	6,204
45～49歳	3,758	4,429	8,187	3,810	4,228	8,038	3,458	3,765	7,223
50～54歳	3,869	4,512	8,381	3,700	4,382	8,082	3,755	4,184	7,939
55～59歳	4,215	4,646	8,861	3,920	4,499	8,419	3,754	4,371	8,125
60～64歳	4,746	5,109	9,855	4,383	4,679	9,062	4,084	4,534	8,618
65～69歳	4,211	4,739	8,950	4,646	5,059	9,705	4,302	4,638	8,940
70～74歳	3,193	3,830	7,023	4,016	4,662	8,678	4,453	4,987	9,440
75～79歳	2,597	3,309	5,906	2,915	3,706	6,621	3,697	4,529	8,226
80～84歳	1,868	2,732	4,600	2,160	3,136	5,296	2,460	3,540	6,000
85～89歳	957	1,822	2,779	1,315	2,394	3,709	1,556	2,785	4,341
90歳～	477	1,133	1,610	830	1,785	2,615	1,269	2,569	3,838
合計	58,367	63,890	122,257	56,420	62,626	119,046	54,072	60,792	114,864

平成22年時点の人口ピラミッドを図表Ⅲ－6に、平成35年時点の人口ピラミッドを図表Ⅲ－7に示します。平成22年時点で最も人口が多い階層は60～64歳の階層ですが、それから13年後の平成35年には70～74歳の階層となります。

平成22年と35年の人口ピラミッドの形状を比べると、平成22年は60～64歳の階層に最も人口が多い、第一次ベビーブーム期（1947～1949年）に出生した世代が位置し、15～24歳の大学・短期大学等の学生の階層の「双こぶ分布」となっています。かわって、平成35年では、大学・短期大学等の学生の階層は他と比べて比較的人口が多いものの、全体としては「逆三角形分布」となっています。この傾向は、より少数の現役世代が多数の高齢者を支えなければならない社会が到来することを示しています。

図表Ⅲ－6 平成22年時点の人口ピラミッド（実績）



図表Ⅲ－7 平成35年時点の人口ピラミッド（推計）

